

**研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム**  
**FS ステージ シーズ顕在化タイプ 事後評価報告書**

研究開発課題名	: 植物香気成分の抗炎症作用を活用した新規香粧品の開発
プロジェクトリーダー	: モアコスメティックス(株)
所属機関	: モアコスメティックス(株)
研究責任者	: 宮澤三雄(近畿大学)

### 1. 研究開発の目的

香粧品分野での幅広い応用が考えられる香り物質(p-メントン骨格を有すモノテルペン)の数種において抗炎症作用を示すことを明らかにした(特願 2010-138095)。本研究は、植物香気物質の抗炎症作用を化粧料として実用化するために、製品化の際に問題となる香り物質の揮発や構造変化による機能性低下の対策検討を進め、安定性および安全性の高い製品開発を目指すものである。本研究が完結することにより、副作用のない『抗炎症作用を示す天然香り物質配合化粧品』すなわち、植物香気成分の抗炎症作用を活用した新しいタイプの香粧品開発が完成する

### 2. 研究開発の概要

#### ①成果

本研究では、『抗炎症作用を示す天然香り物質配合化粧品』の開発を最終的な目的として、抗炎症作用を示すp-メントン骨格モノテルペンの化粧品への配合の検討及び新たなシーズ候補の探索としてユリ科植物香気成分からの新規抗炎症香気成分の発見を目標に実験を開始した。その結果、p-メントン骨格モノテルペンの化粧品配合検討では、実際のシャンプー及びローションを試作する事で一定の安定性を実現でき、またその際の安全性についても *in vitro* 及び *in vivo* で確認するに至った。一方のユリ科植物の検討では、6種のユリ科植物から香気成分を採取、シクロオキシゲナーゼ阻害活性をそれぞれ確認した結果、2種で強い活性を確認でき、その活性成分としても数種の活性成分を特定するに至った。

#### ②今後の展開

本研究によりp-メントン骨格モノテルペンの中長期的な安定的及び安全な化粧品配合の両立が可能である事が示されたため、今後はスケールアップや実際の使用テストなどを重ね、最終的な商品化へ向けた検討を重ねる。一方で、今回の検討により明らかとしたユリ科植物の香気成分による抗炎症作用については、特許申請を進めると同時にp-メントン骨格を有すモノテルペン同様に化粧品に配合した際の安定性や安全性について詳細に検討を進める。

### 3. 総合所見

目標通りの成果が得られ、イノベーション創出が期待される。化粧品としての応用の可能性が高いと考えられ、今後、企業側で商品化への検討を迅速に進めて欲しい。